

平成 28 年度共同研究プロジェクト研究集会「東日本大震災の教訓を基にした学校防災の展開」を開催しました(2017/1/28-29)

テーマ：学校安全、防災教育、放射線教育、福島県
 場所：災害科学国際研究所 1 階セミナー・会議室

1月28日(土)～29日(日)の2日間にわたり、災害科学国際研究所にて、研究集会「東日本大震災の教訓を基にした学校防災の展開～福島県での多様な災害事例とこれからのレジリエントな防災教育～」を、防災教育国際協働センターの主催で開催しました。共同研究グループのメンバーを中心に2日間で延べ28名が参加しました。所内からは、源栄正人教授(災害リスク研究部門)、奥村誠教授(人間・社会対応研究部門)、邑本俊亮教授(同)、千田浩一教授(災害医学研究部門)、稲葉洋平助教(同)、そして佐藤健教授(情報管理・社会連携部門)が参加しました。

28日(土)のプログラムは、藤岡達也客員教授(研究代表者)の趣旨説明のあと、第一部として、福島県の防災教育の取り組みを吉川武彦指導主事(福島県教育庁義務教育課)から、福島県の放射線教育の取り組みを國井博指導主事(福島県教育庁義務教育課)から、福島県の学校現場での防災・放射線教育の現状と課題を阿部洋己校長(富岡第一中学校)から発表がなされ、山口克彦教授(福島大学共生システム理工学類)が第一部の総括を行いました。第二部では、防災教育を中心とした実践的安全教育総合支援事業の取り組み事例として、大前宣徳主幹(滋賀県教育委員会事務局保健体育課)および北川英樹指導主事(同)から滋賀県での報告がありました。また、特色ある防災教育の実践事例として、川真田早苗教諭(兵庫教育大学大学院生)の発表がなされ、大辻永教授(東洋大学理工学部)が第二部の総括を行いました。初日のプログラムの最後には、邑本俊亮教授の案内・解説により、災害科学国際研究所の防災教育に関連する施設設備の見学・体験が行われました。

29日(土)のプログラムは、藤岡達也客員教授(研究代表者)の研究取りまとめが行われた後、仙台市沿岸地域の復興状況の視察、せんだい3.11メモリアル交流館への訪問を行いました。交流館では、交流係の澤田さんから仙台市東部沿岸地域のコミュニティ再生をはじめとする交流館の取り組みの紹介があり、仙台市防災環境都市推進室の柳谷さんからは、震災遺構としての旧仙台市立荒浜小学校の整備計画や今後の利活用についてのレクチャーが行われました。

2日間のミーティングを通して、福島県での今後の防災教育や放射線教育のあり方をはじめ、今後の避難指示解除に伴うコミュニティ再創生に向けた研究と実務の融合にとって、極めて有益な情報共有とディスカッションを行うことができました。



研究集会会場



総合討論



邑本教授による施設設備の案内・解説



旧荒浜小学校の視察



深沼海岸の防潮堤視察



せんだい3.11メモリアル交流館での研修



文責：佐藤健(情報管理・社会連携部門)